

<No21 : 地図編集>

図 21 は、国土地理院発行の電子地形図 25000 の一部 (縮尺を変更、一部改変) である。次の文は、この図に表現されている内容について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。

次の中から選べ。



図 21

※印刷環境によって、縮尺が異なる場合があります。

1. 標高 55.8m の三角点から標高 3.4m の三角点までの水平距離は、およそ 2,010m である。
2. 豊岡トンネルの東側の坑口と西側の坑口の標高差は、20m 以下である。
3. 山陰本線豊岡駅の記号の北西角から税務署までの水平距離は、およそ 580m である。
4. 市役所から図書館までの水平距離は、およそ 410m である。
5. 立野大橋より南側かつ円山川より東側には、主に田が広がっている。

<No22 : 地図編集>

次の a～e の文は、地図の投影法について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. ユニバーサル横メルカトル図法 (UTM 図法) は、国土地理院刊行の 1/25,000 地形図で採用されている投影法である。
- b. 平面直角座標系 (平成 14 年国土交通省告示第 9 号) では、日本全国を 16 の区域に分けてそれぞれの座標系原点の経緯度を定義している。
- c. ユニバーサル横メルカトル図法 (UTM 図法) と平面直角座標系 (平成 14 年国土交通省告示第 9 号) で用いる投影法は、ともに横円筒図法の一つであるガウス・クリューゲル図法である。
- d. メルカトル図法は、面積が正しく表現される投影法である。
- e. 投影法は、投影面の種類によって分類すると、方位図法、円錐図法及び円筒図法に大別される。

- 1. a, c
- 2. a, e
- 3. b, d
- 4. b, e
- 5. c, d

<No23 : 地図編集>

次の a～e の文は、一般的な地図編集における転位の原則について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. 骨格となる人工地物（道路、鉄道など）とその他の人工地物（建物など）が近接し、どちらかを転位する場合はその他の人工地物を転位する。
- b. 有形線（河川、道路など）と無形線（等高線、境界など）とが近接し、どちらかを転位する場合は無形線を転位する。
- c. 有形の自然地物（河川など）と人工地物（道路など）が近接し、どちらかを転位する場合は自然地物を転位する。
- d. 三角点及び水準点は転位することはできない。
- e. 転位にあたっては、相対的位置関係を乱さないようにする。

- 1. a, b
- 2. a, e
- 3. b, c
- 4. c, d
- 5. d, e

<No24 : 地図編集>

次の文は、ハザードマップについて述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。
次の中から選べ。

1. 地震・洪水などの災害をもたらす自然現象を予測して、想定される被害の種類・程度とその範囲をハザードマップに示した。
2. 地震災害、洪水災害など災害の種類に応じたハザードマップを作成した。
3. 洪水災害のハザードマップの使用を希望した者がハザードマップを作成した自治体の職員ではなかったため、使用を許可しなかった。
4. 地域の土地の成り立ちや地形・地盤の特徴、過去の災害履歴などの情報を用いてハザードマップを作成した。
5. 最新の基図データを使用したハザードマップの作成を、公共測量として実施した。